

# フットボールヴィレッジ構想

～スポーツによる地域活性化と誘客拡大戦略～

---



## 伊勢フットボールヴィレッジ構想とは

---

伊勢フットボールヴィレッジ構想は、伊勢市朝熊町の朝熊山麓公園を健康増進及び生涯スポーツの拠点と位置付け、市民がよりスポーツに親しみやすい環境づくりを推進していくものです。

本公園は伊勢市で最も高い朝熊ヶ岳の北山麓に位置し、南を伊勢二見鳥羽ラインに接し、北は1級河川五十鈴川派川の河畔に面した、地形的には平坦で周辺の山々や芝生広場、河川や修景池など、緑と水に恵まれた公園です。

公園内には、多目的広場、フットボール場やソフトボール場などを備え、南には県営サンアリーナを配し、各種スポーツやレクリエーション活動をはじめ、伊勢市の交流拠点としての性格を持ち合わせています。

この公園内にあるサッカー場を利用し、また新たに整備することで、大会や合宿を通じ市外から集客を図り、既存の観光資源と結びつけることで、地域経済の活性化を旨とすると同時に、市内競技者の競技レベルの向上、交流を図るものです。

## 背景

---

### ■新たな観光客層の獲得

観光入込客数は、平成25年のご遷宮に向け、20年に一度の賑わいが訪れると予想され、実際に参拝者数は、平成18年のお木曳き以降長年の低迷を脱し、年々増加しています。

しかし、過去の統計からご遷宮をピークに観光客数は減少しまちの活気が失われてしまうことも事実です。特に、前のご遷宮以降は景気の悪化と重なり、伊勢のまちは大きく衰退しました。衰退の主要因は、全国的な不景気に他なりません。ご遷宮後に持続的な発展をしていくための戦略が存在しなかったのも一因と考えられます。

そのことを踏まえ、これからの観光政策に置いては、前回と同じ徹を踏まず、ご遷宮後も（一時的な落ち込みはあるとしても）持続的に発展していく戦略が必要とされています。各分野において、複数の戦略が必要ですが、その中の一つとして新たな観光客層の獲得が必要です。新たな観光資源を目的とした層を獲得することにより、ご遷宮後に既存の観光目的による来客が減少しても、一定程度安定した入込客数を確保することが可能となり、激変のリスクを回避することができます。

このようなことから、伊勢の注目度が上がり、宣伝効果が上がりやすい今後数年で、既存の観光客層とは別の新たな客層へアプローチしていく必要があります。

### ■スポーツ誘客の有効性

スポーツ関係の合宿や大会をすることで、誘客を図ることは、観光入込客数の拡大策のひとつです。現在、伊勢市でもスポーツによる誘客は行われていますが、伊勢志摩地域の観光客数に占める「スポーツを楽しむこと」を目的とした観光客の割合は、各季節を通じ3%以下であり（平成21年度三重県観光レクリエーション入込み客数推計書・観光客実態調査報告書より、以下、21県観光推計とします）、発展の余地が十分に残されています。

このスポーツ誘客では、来訪者が団体で訪れることが多く、また、小学生や中学生を対象とした合宿や大

会の誘致は、学生の親が付き添ってくる場合もあり、より多くの観光客を誘致することができます。

#### ■ サッカーの性質

財団法人日本サッカー協会 2009 年度の登録者数は 28,818 チーム、選手 888,916 人、総数 1,320,035 人です。登録していないサッカー愛好者を含めると、その数は 200 万人とも言われています。国外に目を向けると、全世界のなかで最も競技人口が多いスポーツであり、そのマーケットは非常に大きく、今後もマーケットは拡大していくと予想されます。また、他のスポーツと比べ、サッカーの競技者はスポーツにかかる予算が大きく、合宿などの頻度も高いのが特徴です。

#### ■ 東海・関西地方のサッカー環境

東海・関西地方は、サッカーへの関心度が高く、複数のプロサッカーチームが存在します。また、古くからサッカー王国と呼ばれる静岡県もこの地域にあります。

実際、財団法人日本サッカー協会 2009 年度の登録者数のうち、愛知・岐阜・三重・静岡・滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山の 10 府県で全体の 26% を占め、その人気の高さがうかがえます。

しかし、この地域にはこれまで大規模合宿施設が静岡県にしかなく（中規模なものは他府県にも存在）、大阪府にも同様の施設が 2010 年 4 月に完成しましたが、地域内での大会開催や交流を図る場合、いずれかの府県のチームは長距離移動を余儀なくされます。そのようなことから、この地域の中間地点に位置する伊勢市は、地域間交流の拠点として、地理的に適しています。

なお、既に稼動しているエリア 1 の人工芝ピッチ 2 面においては、夏期を中心に主に東海・関西地方からの大会・合宿による利用が増えております。

## 伊勢フットボールヴィレッジ構想の位置付け

---

#### ■ スポーツ誘客のメイン施設

当構想の目的のひとつはスポーツ大会の開催や合宿をしていただくことを通じ、伊勢市を訪れる人を増やし、経済を活性化することです。スポーツを通じた誘客の拡大には、その基盤となる魅力的なスポーツ施設の整備が必要であり、また、その施設を有効に活用し、誘客へと結びつけていく仕掛けが必要となります。これらの施設整備（ハード）と有効活用（ソフト）を組み合わせ、他の観光資源と相乗効果を生む状態を創り出すことを目指します。

スポーツ誘客には、サッカー、野球、テニス他、複数種目のスポーツが想定されますが、当構想ではその中の一つであるサッカーについて事業展開していきます。サッカーについては、全国的に男女を問わず、認知度の高い競技であり、競技人口も多いため大会や合宿について集客力があり、誘客へつなげるのに適した競技の一つと言えます。このスポーツによる誘客を推進し、伊勢市のあるべき姿である「伊勢志摩地域の観光拠点」を目指します。

#### ■ 市民の競技レベルの向上

市内のサッカー競技者及び愛好者にとっての環境整備を行うことで、競技人口の増加、競技レベルの向上を図り、さらには市民の健康増進、青少年の健全育成の推進にもつなげていくことも当構想の目的のひとつです。現在、構想の第 1 段階としてエリア 1 の人工芝ピッチ 2 面が稼動しており既に東海・関西地方では認

知されつつありますが、当該施設は以前から地元団体が主に利用するサッカーグラウンドをリニューアルした施設であり、当構想の実施にあたり増設されたものではありません。したがって、スポーツ誘客における市外からの集大会、合宿での利用と従前からの地元団体の練習、試合での利用とが共存しているのが現状です。

サッカー場を整備し5面にすることで、誘客による利用者と地元利用者の「譲り合い」を減らすことができ、同時に、集大会・合宿での利用の合間に市民による新たな利用機会を生み出すことも可能となります。サッカー教室やイベントの誘致を推進することで、既存の競技者だけでなく、性別、年齢を問わず幅広く地元の皆さんにサッカーを楽しんでいただける機会をつくることもでき、また、面数を増やしスポーツ誘客による利用が増加すれば、市内の団体と市外・県外から訪れる団体との交流も生まれることからそれらを契機に市内のサッカー人口が増え、市全体の競技レベルのアップにもつながっていくことになります。

また、この地域のサッカーレベルが上がれば、他地域からの注目度も増し、必然的に対外試合等の機会も増えることから、更なるレベルアップ・施設利用増加等の相乗効果が期待されます。

#### ■気軽に使えるスポーツ施設

主目的となるサッカー競技のみに使用目的を限定することなく、平日の昼間等使用頻度の低い時間帯を中心に、芝に負担のかからない範囲で、他のスポーツやレクリエーション等にも開放することで、老若男女を問わずすべての市民の健康づくりの場として、また、サッカー以外のスポーツ誘客の場としても活用していきます。

#### ■市民がスポーツに親しむ

公園内では、サッカー場に限らず、芝生球技広場では、キャッチボール、縄跳びなど、またグラウンドゴルフ場も設置されており幅広いスポーツが出来ます。スポーツだけでなく、お子さまとのかけっこなど、芝生の特性を活かし怪我の少ない軽スポーツが楽しめます。

また、予約の必要もなく体を動かしたいときに、自由に使用でき、スポーツを身近に感じてもらえる施設が整備されております。

市民がスポーツに親しみ、健康に暮らせるようしていただくのも当構想の目的のひとつです。

## 伊勢フットボールヴィレッジ構想構成事業

- ◇大規模合宿・大会が可能なサッカーコートの整備
- ◇サッカーを中心とした合宿・集大会の誘致による集客
- ◇教室・イベント誘致による市内競技レベル向上の推進
- ◇一般市民の健康増進を中心とした多目的利用の促進

## 伊勢フットボールヴィレッジ構想の経済効果

### ■スポーツ誘客により市外貨（市外から貨幣）を獲得

合宿、大会に参加する競技者は、直接的にサッカーコートの使用料や宿泊にかかる費用を投下することになります。宿泊については、隣接する二見地域を中心に市内の宿泊施設へ誘導します。また、練習後に観光資源の豊富な伊勢市へ観光に繰出す可能性が高く、観光スポットに対しても経済的な効果は波及すると考えられます。

誘客による

**経済波及効果・・・10年間で約20億円**（建設による効果を除く）

※ 算出方法については、別添の参考資料をご確認ください

## ターゲット

- 主力ターゲットは市内及び東海・関西地方のサッカー、フットサル競技者及びその家族・・・対象23万人以上（日本サッカー協会登録者）
- アマチュア・学生の合宿、大会参加者が中心
- その他、全国の競技者もターゲット
- Jリーグなどの公式行事（公式試合は不可能）
- サッカー以外（アメリカンフットボール、ラグビー、ラクロスなど）の競技者を含む

## 他の施設との競争力

伊勢志摩のブランド力は、他の都市と比べ十分なアドバンテージとなります。そもそも、観光地としての知名度、コンテンツを備えているので、単なるサッカー合宿・大会ではなく、競技者やその家族に対して、伊勢志摩で遊ぶ付加価値を提供できます。さらに、東海・関西地方の中間地点に位置し、高速道路から近く、長距離バス等でのアクセスが良い点などから、十分な競争力を持っていると考えられます。

また、近年人気の上昇しているフットサルについては、県営サンアリーナでトップレベルのチームが試合を行ったり、アジア大会参加チームの合宿が開かれたりするなど、「伊勢＝フットサルのメッカ」というコンセプトをつくりやすい状況にあります。この優位性を活用すれば、強固な競争力の基盤を築くことができます。

## 採算性

---

維持管理経費は年間 5,600 万円程度を見込んでいます。使用料等による収入は 1,700 万円前後が見込まれます。施設自体は赤字が見込まれますが、宿泊等の経済効果から実質的な投資効果は高いと考えます。

## 構想をすすめるにあたり

---

■構想の実現にあたっては、ソフト・ハードの両面において、民間活力を活用していきます。

ハード整備においては、当構想に賛同し、協力いただく民間企業、個人、団体に資金および施設の提供をお願いします。

合宿や集大会の誘致など、施設の活用に関しては、ノウハウを所有する民間企業や団体に委託するなどし、最も効率・効果的に活用されることを目指します。

■三重県営サンアリーナと相乗効果を生み出します。

フットボールヴィレッジの整備場所となる朝熊町には、集客施設である県営サンアリーナがあります。既存の施設が一層活用され、相乗効果を生み出すようなハードの整備、ソフト事業展開を目指します。また、まつり博跡地一帯を有効利用していくために、三重県と連携をしていきます。

■宿泊機能を強化します。

スポーツ関連観光客に対する宿泊施設提供のために、二見地域を中心に市内の宿泊機能を高めていきます。

■地域の観光関連施設と連携を図ります。

観光関連施設と連携を図ることで、大会や合宿だけの滞在で帰宅せず、市内での滞在時間を延ばし地域経済の活性化を図ります。

## 基本計画

---



# 1. 伊勢フットボールヴィレッジ施設整備

伊勢市朝熊町の県営サンアリーナ付近に、3つのエリアを設け（別紙参照）、合計5面のサッカーコートを整備します。その他、クラブハウス1棟、駐車場約600台を整備します（表1）。

【表1】

	整備内容	
	サッカーコート（フルコート）	その他施設
エリア1（完成）	人工芝 2面（夜間照明 有）	
エリア2	天然芝 1面	
エリア3	人工芝 2面（夜間照明 有）	クラブハウス1棟 駐車場 約600台
合計	人工芝 4面（夜間照明 有） 天然芝 1面	クラブハウス1棟 駐車場 約600台

※配置等は別紙1参照 整備内容については、状況に応じて変更することがあります。

## 1. 事業規模

本構想の総事業額は、15億円～17億円規模の見込みです。総事業費のうち市の負担は約2億円規模の見込みです。市は基盤整備工事を負担し、基盤整備以外のサッカー場等建設工事については、民間業者から寄付を受けます。

## 2. 整備スケジュール

エリア1 平成19年度 完成済み

エリア2 平成25年度～

エリア3 平成23年度～平成24年度

## 3. 各エリアの活用

### エリア1（朝熊山麓公園内、完成）

人工芝のサッカーコートを2面整備。サッカー以外の使用も含め市民利用を中心としますが、大規模大会開催時等については、市民利用と調整します。

### エリア2（朝熊山麓公園内、既存芝コート）

天然芝のサッカーコートを1面整備。市外利用者の大会合宿等、誘客のための利用を中心としますが、オフシーズン等はサッカー以外の利用にも提供します。

### エリア3（県営サンアリーナ前）

人工芝のサッカーコートを2面整備。市外利用者の大会合宿等、誘客のための利用を中心としますが、コアエリア（中心施設）として位置付け、県営サンアリーナのトレーニング施設や各種施設などと連携させ、質の高い合宿や大会を提供することを目指します。

## 2. 伊勢フットボールヴィレッジ活用事業

---

伊勢フットボールヴィレッジ構想は、施設の有効活用による誘客及び市内競技レベルの向上によって、はじめてその目的が達成されます。当施設が単なるスポーツ施設として完結してしまつては、構想の目的は達成されません。スポーツ施設として魅力の向上はもちろん、観光における起爆剤としての位置付けを明確にし、既存の観光資源といかに連携させていくかを十分意識した事業展開を旨とします。

### 1. 合宿の誘致

東海・関西地方の競技者を主要なターゲットとし、合宿を誘致します。

### 2. 集大会の誘致

学生・アマチュアの全国大会レベルの集大会を誘致します。

### 3. 既存の観光資源との連携

合宿・大会等で伊勢を訪れる人々が、主目的であるスポーツを楽しむだけでなく、伊勢の文化・歴史をはじめとする観光資源に触れる仕掛けを展開します。

### 4. 地元利用者向けのサッカー教室・イベントの誘致

市民の健康増進、青少年の健全育成の場として、市民がよりスポーツに親しみやすい環境づくりを推進します。

また、市内のサッカー人口の増加及び競技レベルの向上を図るため、サッカー教室・イベントを誘致します。

### 5. サッカー以外のスポーツイベントによる市内外からの誘客

サッカーのオフシーズン及び平日昼間等使用頻度の低い時間帯を中心に芝の上で楽しめるサッカー以外のスポーツやレクリエーションの大会・イベントを誘致することで、多様なスポーツ誘客を図ります。

# 伊勢フットボールヴィレッジ構想

